

練馬高校 令和4年度【科目名】年間授業計画

教科:(地理歴史)科目:(世界史B)単位数:(3)対象:(第2学年1組～7組)

使用教科書：新選世界史B（東京書籍）

使用教材：最新世界史図説タペストリー（帝国書院） 及び自作プリント

	指導内容 【年間授業計画】	世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
4 月	春季休業		評価の観点は年間を通じて以下のとおりである。 ①5回の定期考査における素点 ②定期考査の度に集めるノート ③通常の授業で集めるプリントなどの提出物 ④平常点	0
	ガイダンス キリスト教の成立	・ヨーロッパ社会を理解するうえで重要なキリスト教について理解させる。 ・キリスト教の成因、及びその教義について、その母体となったユダヤ教と比較させながら理解させる。		1
	宗教改革	・前週の理解事項を踏まえ、カトリック教会が腐敗し、それに対して宗教改革が起こったことを理解させる。 ・ルター、カルヴァン、ヘンリ8世など、宗教改革を牽引した人物、及びその主張について、それぞれを比較させながら理解させる。		3
	ルネサンス①	・ルネサンスが、古代ギリシア・ローマの文化を再生復興させる運動であることを理解させる。 ・ルネサンスによって、人々がヒューマニズムを研究し、中世のキリスト教的価値観から脱却していったことを理解させる。		3
	ルネサンス②	・ルネサンス期に登場した美術や技術に対する理解を、重要人物と重ねて深めさせる。 ・ルネサンスによって発展した科学技術に支えられ、次の大航海時代がもたらされた、その時代的なつながりを強調し、意識させる。		2

	指導内容 【年間授業計画】	世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
5 月	大航海時代②	・新大陸にスペインを中心とした欧州各国が侵略し、メソアメリカ文明を破壊した歴史を理解させ、現代とのつながりを意識させる。 ・欧州・アジア・アフリカの三点を結ぶ三角貿易が完成したことを理解させる。	評価の観点ごとの方法については、年間を通じて以下のとおりである。 ①5回の定期考査における素点が、設定する評価規準に達しているかどうか。 ②定期考査の度に集めるノートの記入量及びまとめが、設定する評価規準に達しているかどうか。 ③通常の授業で集めるプリントなどの提出物の記入量などが、設定する評価規準に達しているかどうか。 ④授業態度や出席状況が、設定する評価規準に達しているかどうか。	3
	近代主権国家の成立① 絶対王政と主権国家 スペインの繁栄とオランダの独立	・近代主権国家体制が、教皇権や諸侯の没落によって完成していく過程について理解させる。 ・スペインが大航海時代の利益などを背景に、「太陽の沈まぬ国」を形成していくことを把握させ、絶対王政を確立していくことを理解させる。		3
	中間考査			1
	主権国家体制の成立② エリザベス女王のイギリス	・イギリスという国が、複数の王国によって構成されている連合王国であることを理解させる。 ・ヘンリ8世が発した国王至上法によって、イギリスに絶対主義が確立し、その後エリザベス一世によって絶頂期を迎えるその過程を把握させる。		2

6月	指導内容 【年間授業計画】	世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
	主権国家体制の成立③ フランスの絶対王政	ユグノー戦争を筆頭とした宗教戦争を経て、国王に権力が集中して行く過程を理解させると同時に、ルイ14世の時にフランス絶対主義が絶頂を迎えることを理解させる。また、この時の政策がのちのフランス革命を引き起こすことを強調する。		2
	主権国家体制の成立④ プロイセンとオーストリア	・宗教改革の影響で発生した三十年戦争によって、神聖ローマ帝国の絶対主義国家化が遅れたことを理解させる。ウエストファリア条約についてはその内容を重要視する。その中でも、プロイセンとオーストリアがヨーロッパの強国として成長していく過程を理解させる。		2
	主権国家体制の成立⑤ ロシア帝国の勢力拡大	・「タタールのくびき」によって成立が遅れたロシア帝国が、ピョートル大帝の欧州化によって勢力を拡大し、ヨーロッパの強国として成長していく過程を理解させる。		2
	産業革命①	・産業革命について、その成因と内容を理解させる。具体的にはマニュファクチュアの成熟や囲い込み、あるいは原料の存在などの成因と、飛び梭やミュール紡績機などの繊維関連の機械の発明、さらには蒸気機関による動力革命、機関車や蒸気船などの交通革命などを把握させる。		2
	産業革命②	・産業革命によって、世界の貿易形態が変化することを理解させる。具体的には大航海時代の三角貿易の状態から、「世界の工場」となったイギリスを中心とした世界貿易となることを、比較しながら理解させる。		2

	指導内容 【年間授業計画】	世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
7 月	期末考査			1
	産業革命③	・産業革命によって発生した、社会的な変容について理解させる。具体的には労働問題や公害の発生、さらにそれに伴う法整備などについて学ばせる。そのような変容の中で、資本主義と社会主義という思想が発生することも理解させる。		3
	アメリカ合衆国の独立	・イギリス絶対王政期に成立した13植民地が、イギリス本国から独立し、アメリカ合衆国となる過程について理解させる。 ・この際成立したアメリカ独立宣言が、後のフランス革命の思想的ベースになることを強調する。		2
	夏季休業			
	夏季休業			

指導内容 【年間授業計画】		世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
8 月	夏季休業			
	夏季休業			
	夏季休業			
	夏季休業			
	夏季休業			

	指導内容 【年間授業計画】	世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
9月	フランス革命①	・フランスのアンシャンレジームについて理解させる。また、フランス絶対主義で既習の革命の遠因にも触れ、その中で、第三身分や自由主義貴族たちによって、革命が発生したその経緯を理解させる。その後、議会の変遷によって革命の性質も変化していくことを把握させる。		1
	フランス革命②	・第一回対仏大同盟など、革命に対して徐々に外国の介入がはじまったことを理解させ、それをベースに、ロベスピエールによる恐怖政治が始まった理由や、ナポレオンに人気が集中していく過程を理解させる。		2
	ナポレオン①	・ナポレオンのエジプト遠征から、その没落までを扱う。連戦連勝するナポレオンに国民の人気が集まり、皇帝に就任し、イギリスを除くヨーロッパほぼ全域を支配化に置く、ナポレオン帝国を形成したことを理解させる。		3
	ナポレオン②	・ナポレオンがヨーロッパにもたらした影響について理解させる。具体的には、ナショナリズムやナポレオン法典など、フランス革命の結果を、支配したヨーロッパ諸国に広めるという「革命の輸出」について理解させる。		3
	ウィーン体制と1848年の革命 ① ウィーン会議	・ナポレオン戦争の戦後処理として、メッテルニヒを主宰としたウィーン会議が開催されたことを、及びその内容や理念について理解させる。その軸がナショナリズムを押さえ込み、欧州を革命以前の状態に戻す「正統主義」であることを強調する。		3

	指導内容 【年間授業計画】	世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
10 月	ウィーン体制と1848年の革命 ② フランス七月革命と二月革命	・一度欧州中に広まったナショナリズムや自由主義といった思想が、革命という形となって現れていく、その過程を理解させる。特にフランス二月革命は、その後ヨーロッパ中に強い影響を与えることを強調する。		2
	ウィーン体制と1848年の革命 ③ イギリス自由主義の発展	・ヨーロッパ諸国で、自由主義的な政策が実行される。イギリスにおいては、それが選挙法の改正や、航海法や穀物法の廃止、そして審査法の廃止からカトリック教徒解放法制定といった形で現れることを理解させる。		3
	国民国家の建設と国際関係の 変化① イタリアとドイツの建設	・ナショナリズムの高揚を受け、今まで国家の形成が遅れていたイタリアとドイツでも統一運動が始まり、統一国家が完成する過程を理解させる。特に、ビスマルクの政策は、後のヨーロッパの国際関係を把握する上で非常に重要になるため、強調する。		3
	中間考査			1
	国民国家の建設と国際関係の 変化② 東方問題とロシア 社会主義運動のはじまり	・主にロシアの自由主義改革について取り扱う。自由主義の浸透が不十分であるロシアにおいては、アレクサンドル2世の上からの改革が不徹底に終わり、また市民運動であるナロードニキ運動も成果を挙げられなかったことを理解させる。		2

	指導内容 【年間授業計画】	世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
11月	ヨーロッパ諸国のアジア進出 帝国主義と世界の分割①	・欧米列強による帝国主義を扱う。列強が海外植民地を強く必要とした背景を理解させ、その結果が現代社会にも大きな影響を与えていることを強調する。 ・帝国主義の対象となったアフリカ、アジア、オセアニアについて具体的に扱う。そしてその結果として、ビスマルク体制が崩壊し、三国協商が完成することを理解させる。		3
	ヨーロッパ諸国のアジア進出 帝国主義と世界の分割②	・徐々に世界史の中でも存在感を増していく日本の成長及び帝国主義についても理解させ、日本史と世界史の横断的な展開を目指す。		3
	2つの世界大戦 第一次世界大戦① 第一次世界大戦前夜	・帝国主義に挟まれ、民族問題が加熱していくバルカン半島について取り扱う。バルカン戦争を軸に、なぜ半島が”ヨーロッパの火薬庫”と呼ばれるようになったのかを理解させる。 ・帝国主義の時代を通じて完成した、三国同盟と三国協商のそれぞれの動きを明確する。		1
	2つの世界大戦 第一次世界大戦② 第一次世界大戦勃発	・第一次世界大戦が、従来戦争とはその性格が大きく異なることを理解させる。具体的には塹壕戦、新兵器の開発、そして総力戦の部分であり、またその結果として戦死者数などが増大したことにも着目させる。 ・第一次世界大戦の戦局の変化を理解させる。ドイツ帝国のシュリーフェン・プランに始まり、ロシア革命、アメリカの参戦など、流れを明確にする。		3

12月	指導内容 【年間授業計画】	世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
	2つの世界大戦 第一次世界大戦③			3
	2学期期末考査			1
	2つの世界大戦 第一次世界大戦④ ロシア革命	・第一次世界大戦の最中に発生し、戦争から離脱するきっかけとなったロシア革命を扱う。大戦前後のロシアの国内情勢を背景に、国内が二重権力状態になる過程を理解させる。 ・社会主義の思想や政治についてはここで詳しく取り扱う。		2
	冬季休業			
	冬季休業			

	指導内容 【年間授業計画】	世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
1 月	冬季休業			
				1
	ヴェルサイユ体制とワシントン体制① 帝国の解体 ヴェルサイユ体制と国際連盟	・ウィルソンの平和14か条とヴェルサイユ条約の、相似性と矛盾を軸に、戦後の国際秩序を理解させる。 ・国際連盟が、世界史史上初の国際的平和維持機構であることを説明すると共に、その特徴・脆弱性を理解させる。		3
	ヴェルサイユ体制とワシントン体制② ワシントン体制の成立	・戦後国際秩序のもう一つの軸である、ワシントン体制について取り扱う。具体的には「領土保全」「軍備縮小」をキーワードにし、結果として成立した条約の内容を理解させる。		3

	指導内容 【年間授業計画】	世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
2 月	ヴェルサイユ体制とワシントン体制③ 大戦後の西欧諸国 アメリカ合衆国の台頭と繁栄	・世界大戦を通じて没落した欧州列強と対照的に経済力を著しく成長させ、「黄金の20年代」またその陰として「狂乱の20年代」を現出させたアメリカの国内の様子を、多角的・多面的に取り扱い理解させる。		3
	ヴェルサイユ体制とワシントン体制④ イギリス・ドイツ・イタリア	・世界大戦後、戦後復興に苦しむヨーロッパ諸国を国別に取り扱う。戦後不安からの社会主義の台頭、米借款による国際的な資本の流れを理解させ、そういった中でドイツでナチスが台頭する様子を把握させる。		3
	世界恐慌と自由主義への挑戦 ① 世界恐慌の発生	・アメリカから端を発した世界恐慌について取り扱う。世界恐慌についてはその原因及び経過を理解させると共に、その国際的影響を把握させる。 ・アメリカの行ったニューディール政策については、それぞれの政策の特徴及び結果・効果について説明する。 ・ブロック経済について理解させ、この結果「持てる国」と「もたざる国」という、新たな国際情勢に展開する過程を把握させる。		3
	世界恐慌と自由主義への挑戦 ② ブロック経済 ヴェルサイユ体制の崩壊			2

	指導内容 【年間授業計画】	世界史Bの具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点 方法	予定 時数
3月	学年末考查			1
	第二次世界大戦① ヨーロッパ戦線の拡大 戦争の変質	・「もたざる国」となったドイツ・イタリア・日本が、それぞれ植民地を拡大させる動きを取り、ヴェルサイユ・ワシントン体制を維持しようとする国家と対立したことが、第二次世界大戦の大きな原因となったことを理解させる。 ・ヨーロッパ戦線についてはナチスドイツの動きを、アジア戦線については日本の動きを中心に説明し、第二次世界大戦の経過を理解させる。 ・終戦時については、ホロコーストや原爆など、第二次世界大戦における象徴的な出来事にも触れ、戦争が一般市民にも及ぶようになった戦争の特徴を理解させるとともに、戦争がいかに悲惨で、二度と起きてはならないものであるということを強調する。 ・時間的に余裕があれば、冷戦の構造を取り扱う。		3
	第二次世界大戦② アジアと太平洋における戦争 紛争下のアジア諸国			3
	第二次世界大戦③			2
	春季休業			